

みみはら交流ゾーン

1周年交流会



5.27. 土 参加無料 申込不要

13:30 会場

14:00 開催

会場 耳原総合病院
みみはらホール

14:10 シンポジウム

～病院に在るホールの可能性～

医療×芸術×建築

シンポジスト	大矢亮氏	耳原総合病院 医師 日本HPHネットワーク運営委員
	阪本洋三氏	近畿大学 文芸学部教授
	リムボン氏	立命館大学 産業社会学部教授
コーディネーター	室野愛子氏	ホスピタルアート ディレクター

15:45 紙芝居

手をつなごう
～耳原病院物語～

作品・写真
展示会

主催：
社会医療法人同仁会

●お問い合わせ
組織部 TEL 072-244-8061



全日本民医連第42期第2回評議員会方針 学習会

当事者性を発揮し 方針の具体化を すすめよう

3月24日(金)、同仁会教育委員会主催で評議員会方針学習会を耳原総合病院・みみはらホールにて開催しました。

大阪民医連・地道事務局次長から「医療従事者は、貧しい人々の生来の弁護人であるべき」という世界医師会長マーモット医師の言葉が紹介され、民医連の存在意義をあらためて強調した上で、新しい



地道大阪民医連事務局次長

い2本の柱(*)の実践に向けての方針を、わかりやすく解説していただきました。

同仁会からは、穴井専務より同仁会グループでの取り組みを振り返りながら「意思表示の仕方はさまざま。自分なりの方法で同仁会でも具体化していきましょう」との提起がありました。最後に斉藤理事長から、厳しい情勢に立ち向かうためにも方針学習大運動をすすめてよと、訴えられました。

参加した職員からは「学びや気づきにつながった心に残ったキーワード」として「当事者性を発揮すること」「民医連らしさを高める職員育成」などが出されました。多くの学びを得る場となりました。

*2本の柱

- 「貧困と格差、超高齢化社会に立ち向かう無差別・平等の医療、介護の実践」
- 「安全、倫理、共同のいとなみを軸とした総合的な医療・介護の質の向上」

異文化コミュニケーションカンファレンス

なにわホネホネ団



5月18日(木)

18:00

会場
みみはらホール

大阪市立自然史博物館
骨格標本
作成サークル

自分だけの
骨ストラップ
を作ろう

標本にふれて
生き物を知る

※今後の開催予定については、耳原総合病院のホームページをご覧ください。

シリーズ 現場からの 視点

その24

1950年耳原実費診療所ができ3年後、耳原病院となりました。そして鳳病院、歯科診療所、老人保健施設と事業所の開設が続きます。施設と職員が増え全体を見る部署として法人本部が1979年老松町に独立しました。

法人とは人ではないけれど人のように法律上扱い、権利と義務を持つ主体者となるものです。ここでは理事長1人で意志決定をするのではなく理事会が行い責任を持ちます。理事会に情報を集約し、決定を周知するという役割を法人本部は担います。法人全体を視野に入れた職務を求められるのが法人本部であり主な役割は以下の通りです。

本部の役割と国の政策への対峙

私たちが国の制度の改善にも取り組むのはこのような政府の方針は「命と人権を第一とする民医連の理念・綱領」に反するからです。無料低額診療や差額ベッドなしの「無差別平等」理念の実践のためには、貧困と格差をなくし戦争政策をとらない政治にしなければなりません。その活動の支えは疾病の社会的決定要因(SDH)研究、民医連綱領と憲法の精神であり法人は職員教育としてその学習にも取り組んでいます。

会活動など全法人的な推進の事務局を担うこと」その最終目標は医療・介護の質向上で利用者が満足し、職員が仕事にやりがいを感じ、経営が安定し地域全体が幸せになることです。さて、そこに立ち上がるのが政府の政策です。国の社会保障費は年約100兆円、政府はこれを下げよと予算の自然増分を削り、医師や看護師を増やさず、健康保険料や病院窓口支払いを重くするなど医療・介護の需要と供給両方を抑制しています。さらに政府は大学に軍事研究を迫る、武器の輸出、軍事費を毎年上げるなど福祉中心から教育、医療、産業など国の全て分野を軍事に向けて政策を進めようとしています。

(理事長 斉藤 和則)